

**明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会 第2回 農産物等研究専門部会
議事要旨**

1 開催日時：平成31年2月13日（水）11:00～12:15

2 開催場所：明治大学黒川農場 1階会議室

3 出席者：〔座長〕小清水客員教授

〔部会員〕市川委員、志村（政幸）委員、立川委員、志村（健二）委員、保谷委員、
山中委員、奈良田委員、岩淵委員

〔事務局〕川崎市経済労働局都市農業振興センター 農地課 二郷農地課長、地引保
全係長 小川主任

コンサルタント（（株）URリンケージ 牧野、岸本）

4 議事 〈主な意見〉

（1）平成31年度の具体的取り組み（案）について これまでの成果と今後の課題・方向性

1）農2：栽培技術の向上に向けた取組の検討・実施

- ①アスパラ栽培の課題を共有し、関係機関が手分けをしながらデータ分析していけるとよい。
- ②アスパラガスの知名度が高まっている。収穫してすぐに氷の上で販売するなど、販売方法の工夫で品質のよさをもっとアピールしていくことが必要。
- ③今後は、どのように販売していくかが課題。
- ④アスパラ以外の品目もやってみたいという話があった。
- ⑤微気象の栽培への影響について、研究している先生と連携できるとよい。

2）農3：地域イベント等を通じた黒川産農産物の知名度の向上

〈黒川農産物の知名度向上について〉

- ①果樹についてあまりPRができていない。
- ②もっとマスコミを活用してPRしていくことが必要である。
- ③セレスモスでの生産履歴の管理や、明治大学の生育管理についてももっとPR出来ると良い。

〈地域連携イベントについて〉

- ①明大の農に親しみを持っている学生に向けて、もっと戦略的に呼び掛けていく必要がある。
- ②収穫体験、加工体験が大変好評だった。取り組む価値はある。
- ③黒川の駅前の開発とも連携しながら、黒川の農産物のPRをしていけるとよい。

3）農4：収穫祭における黒川産農産物のPR

- ①収穫祭では、野菜の選定が大変だったが、黒川の野菜のPRになったので継続したい。
- ②買ってもらうだけでなく、味の違いなどを知ってもらえるアンケートができるとよい。
- ③加工品の希少性を生かして取り組めると面白い。

4）取り組み全体

- ①ほかの部会との連携について、強く意識していく必要がある。

- ②タケノコを炊いてうどんにつかう文化等、ふるさと生活指導師とも連携しながら、PRしていけるとよい。
- ③もう少し宣伝の工夫をしていけるとよい。

5 まとめ

新しい計画案については、皆さんの意見をふまえ、これまでの方向性を踏襲していきたい。

以上